

1981年アサマシジミ調査記録

松井 正人

1. 常願寺川水系称名川
(富山県立山町)

調査日・5月31日、6月28日、8月11日
食 草・イワオウギ
アサマシジミ再確認できず

5月31日は、小屋前より谷は一面の雪に覆われていて、不断は行けない所でも調査することができた。イワオウギは近着ることのできない岩壁上に数株発見した。(A点)

6月28日は、雨をっいて嵯峨井氏と共に5本つなぎを持ってイワオウギに挑戦したがアリガ2匹ネットに入っただけだった。

また平地で新しくイワオウギ1株を発見(B点)した。この日も谷には雪が残っていた。

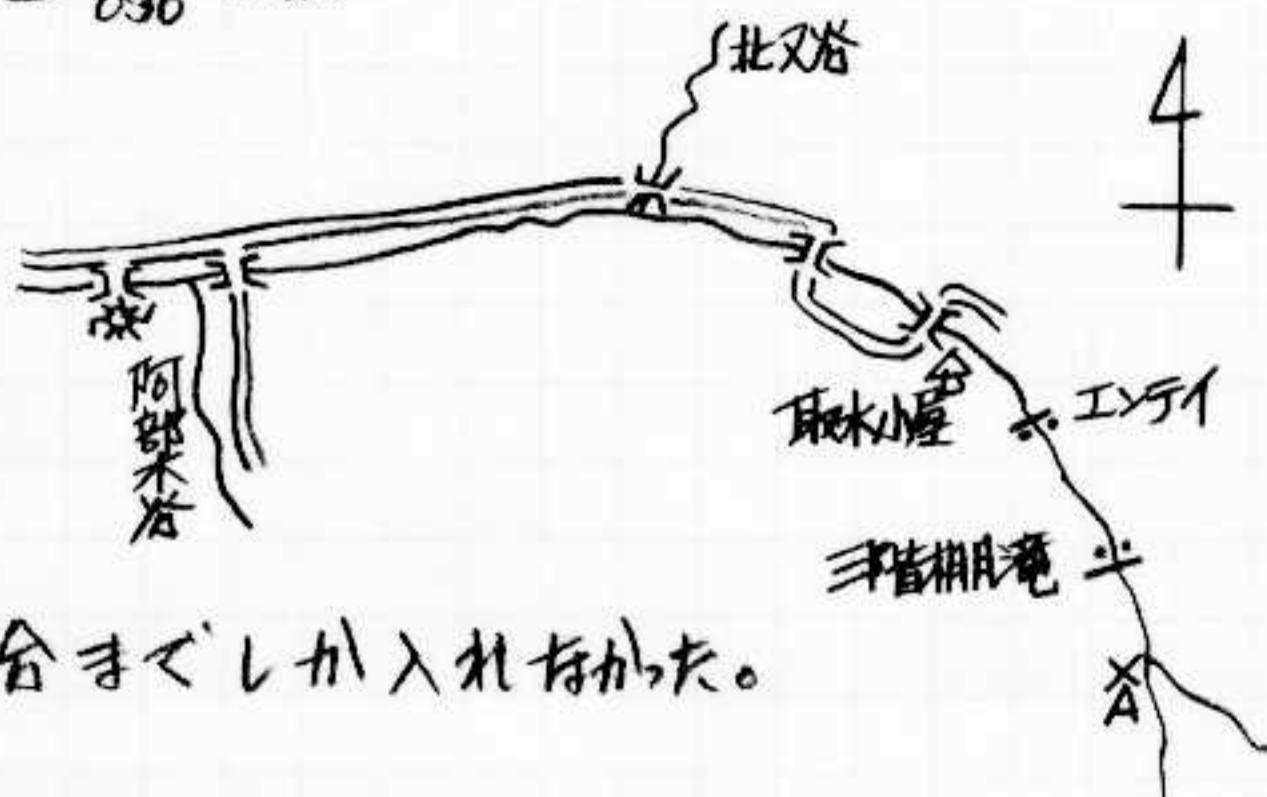
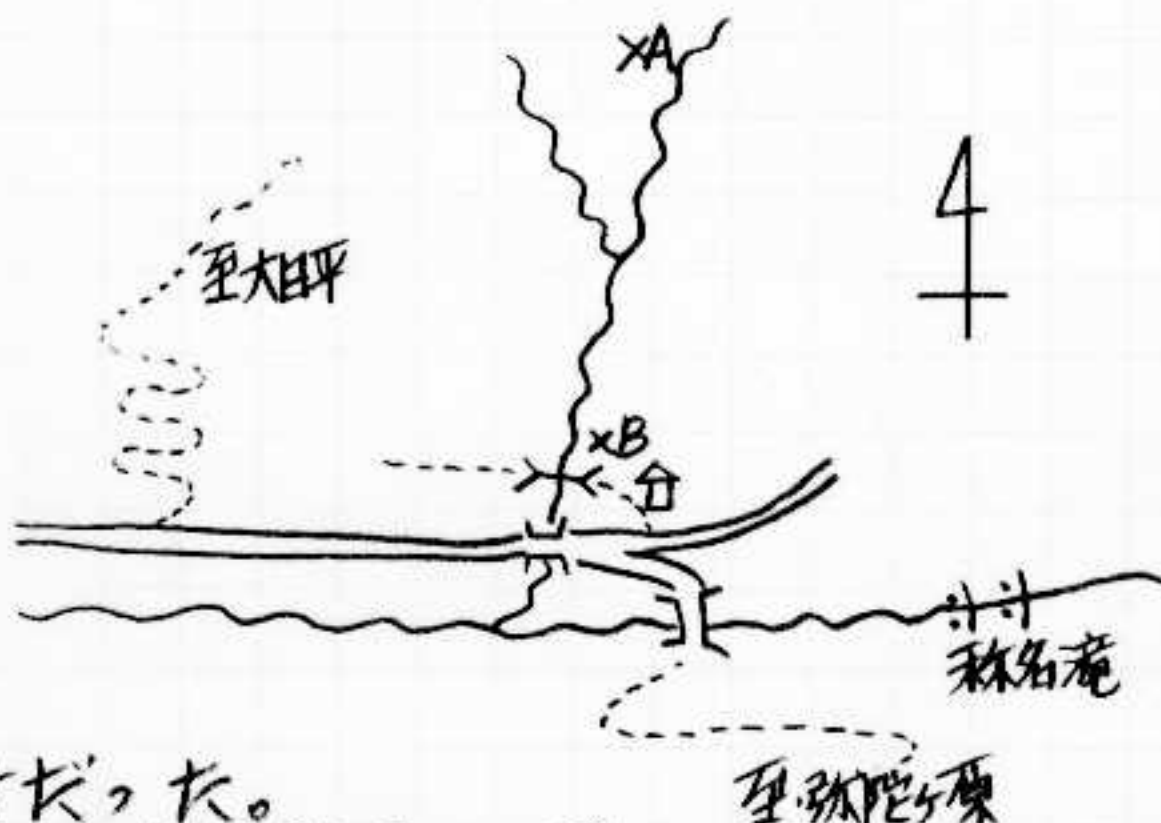
8月11日は、天候にめぐまれたにもかかわらず、アサマシジミは確認できなかった。

参考タイム：取水小屋 → A点 030

2. 片貝川水系東又谷
(富山県魚津市)

調査日・6月7日
可食草・イワオウギ
アサマシジミ発見できず

車は残雪の為、阿部木谷出合までしか入れなかった。



取水小屋までは所々、道が見えてはいたがほとんどは雪上を歩いて行った。取水小屋より奥は、谷にはべったり雪がつまり簡単に歩くことができた。1ヶ所大きな堰堤は右岸をまき、三階棚滝は全く雪の下だった。

三階棚滝付近と思われる両壁に、イワオウギを発見したが、まだ小さく(草丈10cm位)幼虫も発見できなかった。

参考タイム: 阿部木谷出合 $\xrightarrow{1:00}$ 取水小屋 $\xrightarrow{0:40}$ A点

3. 左川水系荒谷 (岐阜県白川村)

調査日・6月21日
食草・ナンテンハギ
アサマシジミ発見できず

車は国道156号線より200~300m程度しか入れず、そこから徒歩になった。ナンテンハギは車を止めた付近より現われ、くるみ谷出合当りで見えなくなった。

ここのナンテンハギは、新芽のところが何箇所かに折られたような様子だったの

で、もしやと思っていたが、帰り際に山菜取りがナンテンハギを摘んでいるのを見て納得した。

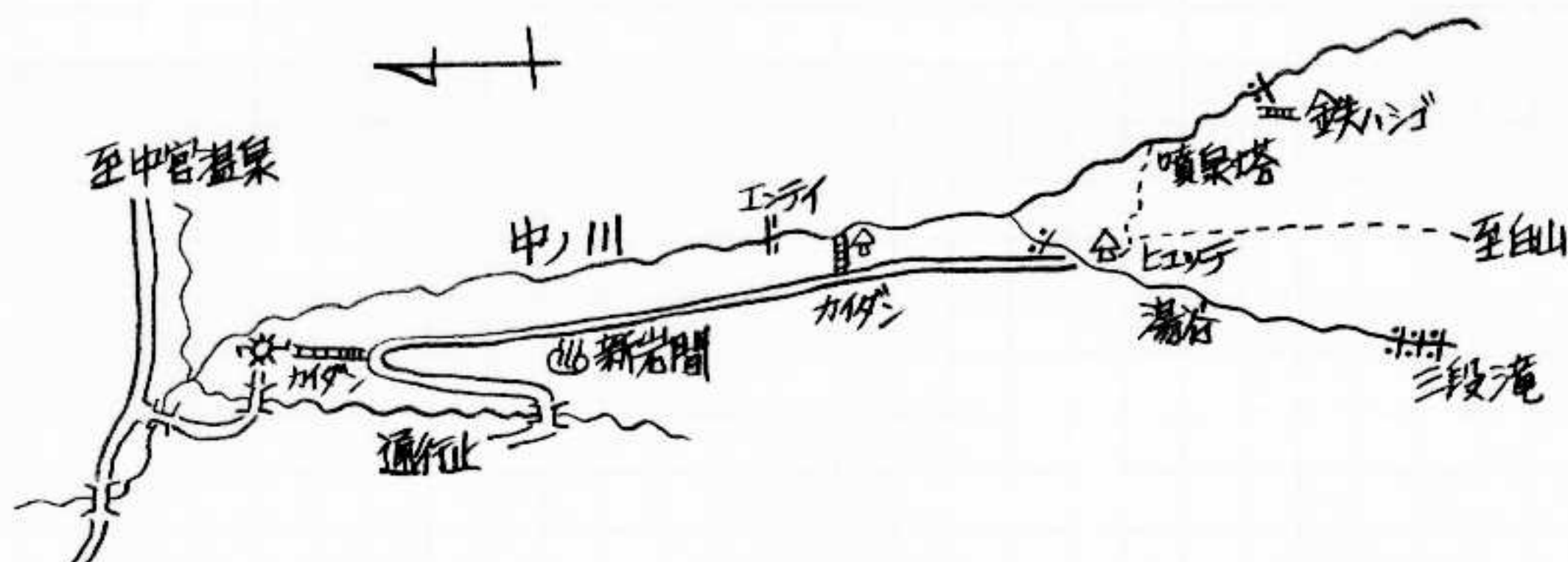
大自木谷出合付近まで昔ながらの車道があって、比較的楽に進むことができたが、その後は沢歩きとなった。きれいな谷でイワオウギがつかうような壁はなく、また河原にも食草らしきものは見られなかった。この日、小谷で嵯峨井氏と共に飲んだ沢水はとてもおいしかったのだが、ほんの2~3m上流にカモシカが一匹いたのには驚ろいた。それには、ウジが長くさんわいていた。

参考タイム: 金沢 $\xrightarrow[1:00]{2:30}$ 荒谷口

4. 手取川水系中ノ川湯谷 (石川県尾口村)

調査日・7月11日
食草 } 発見できず
アサマシジミ }

今年は大雪の影響で、車で岩間方面へは全く入ることができず三俣発電所より歩いて入った。新岩間温泉より岩間ヒュッテまで



も車で充分走ることが出来る道であったが大雪による崩壊の為歩くのもたいへんだった。ヒュッテより三段滝までが調査地であったが、谷のほとんどは雪の下で谷の両側しか調べる事ができなかった。

参考タイム：三俣発電所^{1:30}→岩間ヒュッテ

5. 手取川水系中ノ川 (石川県尾口村)

調査日：6月13日、7月19日

可食草：イワオウギ、ナンテンハギ、タイツリオウギ
アサマジミ 3令^{1ex}確認(7月19日・イワオウギ)

ヒュッテより噴泉塔へ行く道は大雪の為、所々で落ちていた。今年の雪融は例年より1ヶ月程遅く、6月13日には谷一面の残雪でかなり奥まで入れたが、7月19日は雪がブロック状になっていて奥へは入れなかった。イワオウギは噴泉塔のやや下流より西岸の岩壁に見られ、谷の奥まで連続しているようで所々で河原にありしている。タイツリオウギはイワオウギよりぐっと少なく所々に見られるにすぎない。ナンテンハギは一番少なく、噴泉塔付近でしか見られない。今年のアサマジミは噴泉塔より約100m上流で確認した。

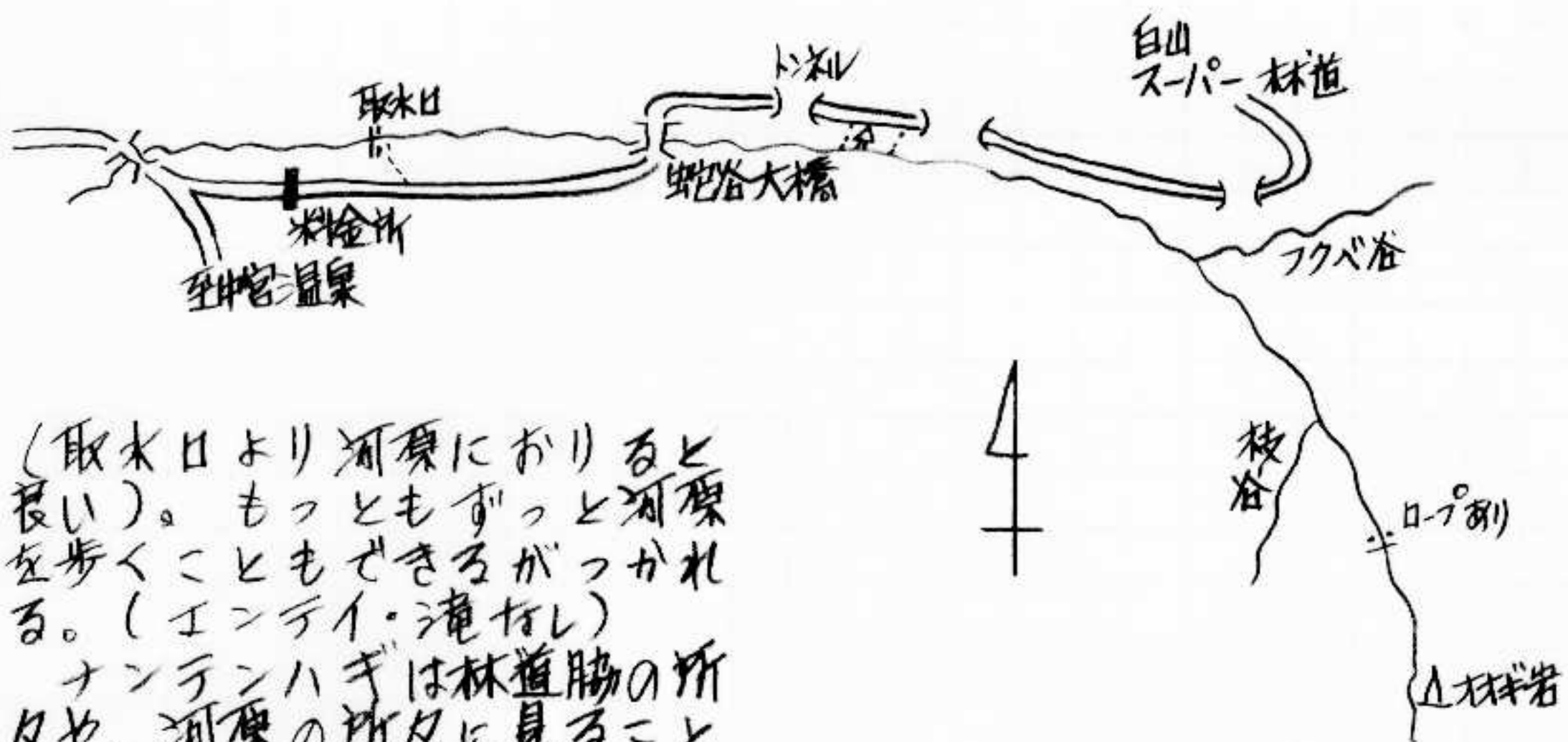
6. 手取川水系蛇谷 (石川県志賀町)

調査日：6月14日、7月12日、7月26日

食草：ナンテンハギ、イワオウギ

アサマジミ 6月14日、幼虫多数確認(大橋付近・ナンテンハギ)
7月12日、2851♀確認(")
7月26日、1♀ (")
7月26日、終令^{1ex}確認(大橋付近・イワオウギ)

スーパー林道は6時30分頃パトロールがまわってから開門するので、それまではスーパー林道を充分使えば良く、帰りもスーパー林道を利用し、出口だけ河原を歩けば集でありおこられない。



(取水口より河原におりると長い)。もっともずっと河原を歩くこともできるがつかれる。(エンテイ・滝なし)

ナンテンハギは林道脇の所々や、河原の所々に見ることができる。幼虫が付いていた

のは、今のところ取水口より蛇谷大橋までの林道脇である。

イワオウギは、枝谷出合の河原より現われたが、幼虫は見られなかった。さらに奥のオオギ岩付近には、西側の岩壁や、河原にたくさんのイワオウギが見られ、アサマシジミも確認できた。

参考タイム：料金所 $\xleftrightarrow[1:30]{林道}$ フクバ谷出合 $\xleftrightarrow[1:00]{}$ 枝谷出合 $\xleftrightarrow[1:30]{3:00}$ オオギ岩

*オオギ岩—河原の真中に高さ8m位のとんがり岩があり、イワオウギに包まれているのでこの名がある。

尾添川水系アサマシジミ調査マップ

松井 正人

尾添川水系のアサマシジミ調査は、1981年を終えて、次のような状態である。

なお、アサマシジミの産地は、

白山自然保護センター付近、	
中宮温泉	〃
蛇谷取水堰堤	〃
蛇谷大橋	〃
墳泉塔	〃
中洲	〃

昔の話をしだしたら老人になった証拠だ、と言われていている。しかし百萬石蟲之會の年寄りと認められている小生が昔の事を思い出すのは何ら支障あるまい。

黒部の溪にクモマツマキがいるなら、山一つこちら側の早月川にも翔んでいる筈だ、とヨクタマシクも出かけた*。ねらった蝶はいなくて、一ツ見たツマキをガラガラ岩の上を追いかけてネットインすれば、タダノツマキだったりして意気は揚らなかつた。しかし数少いハタザオから卵を見つけ、いる事は間違いないと帰ろうとした。

フト見ると、イソオウギに幼虫がついている。一見して前年島々の上流で採り、飼った奴だと分かった。幼虫ごと食草を抜いてビニール袋に入れ師路についた。車の中で「しかし富山県のアサマシジミなんて聞いた事がないな」と思っていた。風呂から上り、一服してから調べてみた。川副・若林の図鑑に「立山産のアサマシジミ」と記述があった。『ナンダもう記載されているのか』と少々残念だったのをおぼえている。肝心のビニール袋は、いくら探しても幼虫が見つからなかつた。抜いた時に落ちたのかと、少々気落ちした。

次の年、こんどは家庭サービスもかねて、一袋そろって出かけた。天気も良く、雪溶け水で昼食を作ったりして楽しかった。成虫は採れなかったが卵はハタザオから採れ、マアマアの成果だった。シジミの方は昨年の食草及びその近傍の株（食草が少くなかつた）を採って、5〜6頭見つけこんどは大切に持って帰り飼育した。その後、このシーズンになるとその地にハイキングに出かけるのが恒例となり、それにつれて赤い蝶、青い蝶が標本箱に少しずつ増えていった。

* 日記によると 1976年6月7日・曇
 ** " 1977年6月5日・晴

僕はもうこの題で自分の事は書けない。なぜなら今年（1981年）は、僕以上のカトカラ狂人が二人も出現してしまったからである。

その二人の狂態を紹介してみたい。

先ず、金子ニ久氏。カトカラの採集法がわからなかつたということなので、今年の7月、佐王山へ同行した。僕はクヌギ等の樹液に集ま

るカトカラを懐中電燈で捜して採集する方法を伝授したが、金子氏はあやしく飛び出すオニベニ、マメキ等の美しさに興奮し、その内藪にとび込むや樹に必殺前ゲリを加えて蛾を追出し始めた。そしてそれは、あっけにとられて見つめる僕を尻目に、けれどもたたくとも虫一匹飛び出さず、あたりを静寂が支配するまで続けられた。それ以来、夜になればカブト虫に集って医王山へ、市ノ瀬へと走り回り、昼は、太陽が顔を出してもしょうものなら、睨みつけて雲が出ることを念じるという凄まじさ。一シーズンにして採集したカトカラはタンボール箱一ぱい分と噂される。その割には僕とのナイターの相性は悪く、僕がナイターで大当たりするのは、湿度が高く、月が無く、金子氏がいない夜となっている。評価すべき戦果は、白馬村のアズミキシタバ。

そんな金子氏も脱帽したというのが、嵯峨井淳郎氏。二人の出合いは9月18日、市ノ瀬の燈火の下。夜中の12時頃、金子氏がひきあげる時にも、嵯峨井氏は目をランランと輝かせ、小雨の中を蛾を求めて歩き回っていたという。氏は狂い出すのが遅かった為、発生の早い蛾はあまり採集していないが、秋の蛾にかけた執念はその分もの凄く、シロ、ベニ、ムラサキなどは各々ドイツ箱一箱分採集したのではないかとされている。他人に真似のできないのは、3夜連続の市ノ瀬通いで、氏は今秋だけでこれを2回もやっている。今ではムラサキシタバの採集に関しては、氏の右に出るものはいないと思われる。

それにしても、カトカラのどこに、老人達の血をかくも滞き立たせる力があるのだろうか？

白山釈迦道に於ける燈火採集の記録

松井 正人

1981年8月30日、ヨコシマミダラゴンビ（カミキリとカマキリ^{*}）は、ナバも持たずにラーメン持って釈迦道へ燈火採集に行きました。7時半。すでに暗い。幕を張る。腕ががゆい。蚊がいやがる。ブラックライト、白色蛍光灯を灯もす。きた。きました。すぐきました。ものすごい数です。ハネアリがぞろぞろ歩いてきます。四方八方から。幕のそばにすわっていると体の上を歩いていく。何やらえたいの知れない蛾もたくさん翔んでくる。蚊も多い。ヨモギを燃やすと蚊がこない？ 幕がアリで真黒になる。幕をはたく。バレーボール位のつぶれたアリダンゴができる。

8時、ヨコヤマヒゲナがカミキリがきた。ヨモギを燃やしている足元にいた。幕から2m位はなれている。ヨコヤマは歩いて来る？

この分ではあと2〜3匹は……。カミキリは要気スタンド片手に
幕の回りをうろうろする。カマキリは懐中電燈でうろうろする（ひ
まつぶし）。アカダンクワガタやヒメオオクワガタをカマキリが遠
く見つける。いらないよ。

9時。市ノ瀬の電燈へ出張。蛾しかいない。喜こびいさんで電話
をする。「ヨコヤマ採れたよ。ワハハハハ（もちろん口に出さない
）。カトカラもきてるよ。『白いのはいらないから』。わかった」。

蚊取線香をおみやげに帰る。ちょっと大きめのカトカラをネット
する。きれいだが白いのはいらないのです。変わったのこないかな
あ。ヨコヤマ歩いてないかなあ。うろうろ。

11時。何度目かのうろうろをして今回の採集を終了とした。おも
しろ半分についてきたカマキリはほっとしている。結局、ヨコヤマ
は、はやはやと採れたにもかかわらず、一匹だけにとどまった。

今回の採集品目録は次の通りです。

ヨコヤマヒゲナガカミキリ	1♂	
シナカミキリ	1ex	
ヒゲナガシラホシカミキリ	1ex	
セミスジゴブヒゲナガカミキリ	1♂	
ハンノアオカミキリ	3exs	
ミヤマクワガタ	3♂♂2♀♀	トナリノガキ行
ヒメオオクワガタ	1♀	
アカダンクワガタ	1♂	
……クワガタ	2♀♀	
カブトムシ	1♂1♀	
カトカラ	クワ	ノナカ行

※ やせていて大きな銀グサのXがネをにかけている為

TOBU TOBU TOBU TOBU TOBU TOBU TOBU TOBU TOBU TOBU TOBU TOBU TOBU TOBU TOBU TOBU

《会員の動き・しゃばの動き》

◆ 58年11月7日、野中・山越峠の雨降リ
ゴンベは傘をさして白山系へ。今回も
“涙のフジドリ”を覚悟していたが、予想
が的中。しかレクロウXモトキオミヤマカラ
スの卵（寄生）が出た。バンコレは途中
で採卵を放棄して、ブナの倒木より天然
ナメコ採りに専念し、2〜3日分のおっゆ
の具がとれた。

◆ 11月9日（日）、松田氏、獅子吼高原へ、ダ
イセン、FAVO等少々採卵した由。

◆ 11月11日（水）、諸道秀人氏、来沢。来沢
のアパートに泊り、松井氏らと再会を喜び、
酒で快気炎を上げたりい。
大津市役所へ就職の為の下準備か？

◆ 11月14日(土). 嵯峨井は、医王山へ。医王の里付近のイボタを調査し5卵塊AD卵のウラゴマダラを採集した。

◆ 11月15日(日). 野中・金多・松田の3人組は富山県の猪谷へ。ヒサマツは4年連続の大豊作。軽く3桁を記録したらしい。

◆ 11月23日(月). 松田・野中・嵯峨井は、赤濱川上流を調査した。ここでもXスアカ・アイノ・ダイセン・ウラゴマダラ等の記録が生れた。

◆ 11月22日(日). 野中・嵯峨井カトカラコンビは、中宮・一里野・目附谷を調査。ゼフムス各種類の記録が生れた。クマの声(野中氏も知らない)を聞かなければ中宮のXスアカはもと沢山採れたかも知れない。同日、松井氏はトガ江へブナの調査。

◆ 11月00日. 金多氏、かねてマイホームを物色中である旨の噂が流れていたが、市内錦町に新居を購入された。沢山の標本の移動に神経を使ったとか。何でも引越しの最中に大切なヒサマツ卵が行方不明になったという。誰かしらめんどや下さい。

◆ 11月25~27日(土). 金大医学部にて金多生物学会の会議が開催された。出席者の内の、ムシに興味のある方々だけでムシの会合を搞ったとか。武蔵明徳大が座長の元、金多氏・野中氏・吉村氏が同席した。

◆ 11月29日(日). 野中氏、野田山~平栗にかけて、オオミドリ採卵に執念を燃やレ、24卵を得た。他にウラゴマダラ少々。同日、松井氏、吉野谷村の高倉山へ。Xスアカ・アイノ・FAYO等が出たらしい。同じく同日、松田・嵯峨井コンビは、中宮~一里野へ。Xスアカ・アイノ・ジョウザン等。

◆ 11月23日(月). 井沢氏、大阪へ。目的は、

元TSU-I-SO編集人橋本誠明氏の経営するセッロー社へ海外採集の現状調査に行った。帰る前にエリゴマダラ事件(詳細は、TSU-I-SOを参照。編集人はあまり詳しく知らない)の真相はどうなのかと口にしたら、セッロー氏大いにムクれたという。おもしろい話。井沢氏もよくいうね。なおセッロー社内に1週間前の橋本清氏の足跡があったという。

◆ 12月5日(土). 野中氏、二俣側より医王山をアタック。雪がなくて標高300程度しか道入せず。コナラやサクラもあり、オオミドリは出たが、Xスアカは出なかったらしい。

同日、井沢国雄氏、嵯峨井亭にて語る。金沢の店をたたんで、愛妻の実家(長野県木曽の寝覚の床)のソバ屋を手伝うことにしたという。全国を放浪すること20数年。とうとう年貢を納めるらしい。木曽での活躍と期待しよう。氏に頼んであった。原稿が、金沢を去る前に初めて編集人のところへ出てきた。やっぱ一流の編集人になれた。ホッ。

◆ 12月6日(日). 松田・野中・嵯峨井のゼフト氏は左礫・杖川・大田川ダムへ。野中氏により、アイノ(コナラ)ダイセン(コナラ)が見つげられた。その他、あわせて各種のゼフトのニューレコードが記録された。

◆ 12月8日(火). 井沢国雄氏、金沢を去る。昨年1月~3月にかけて、フィリピン・マレーシア・インドネシア・タイなどを訪問。仕事も休んで蝶採りに専念する。目標はどうしてもアカリを見たいのだという。会員全員にて大成果を祈ろう。

◆ 12月11日(金). タツタホルマは有休をとって大快晴下、大田ダム周辺をウロウロ。寒風のもと、単身採卵は非常に弱気。……1本のミスナラより42卵のアイノを出してホクホク。

◆ 12月19日~20日. 金多氏、蝶談会例会をサボって、佐渡へ。目標はモクロン、サドマイ、

で13頭を掘り出してきた。が、後日、DD
やXXXに寄生された。寄生虫名はあえて公表
しないことにする。

◆ 12月19日(土)、今年最後の蝶談会例会を
開いたが出席率悪く、野中・井村・竹后・
と私編集人の4人。………?
松井氏などはカゼ熱で寝込んでいたらしい。

◆ 12月20日～2週間程度。井村可見切無
親氏、九州奄見大尉へカミキリの採集
もろん車で乗付けたらしい。車内が枝で
満杯になったので後より早く帰った由。
何となく珍虫のカミキリが採れて喜ん
でいるらしいが、編集人はムシの名を忘れて
しまった。スマン。

◆ 12月20日～21日。野中は普賢血氏、
横浜へ帰郷す。TSU-1-50のウツサを読み。
12月28日丹沢へキシマを捜しに行った。
何でも確実なところを金子先生より情報を
もらっていたので外れず、80印程計めた。
トカ。

◆ 1月1日、大津市の諸直氏より年賀状も

らホ方々知っていると思うが、ムロム氏は、4
月より大津市役所の職員に決定した由。今秋
はあちこちでキシマは豊産とウツサが流れてる
が、どこかの山へキシマ採りに行っているのかし
らん。

◆ 1月2日～7日、松田氏愛妻の笑家へ。兵
隊の久崎へ一回だけ行き、(カゼ気味で体調
が悪いにもかかわらず) ウスロオナカ、ハヤ
シ・ウツサ等 40印前後のゼフを採印した。

◆ 1月9日(土)、金子・野中・嵯峨井のcatocala
3トリオは、嵯峨井亭にて82年春開を語
りあった。最後の最後まで勝ち採ろうと
ばかりに!!
〈嵯峨井記〉

急告 - おしらせ -

- ◎ 百万石ゼフ特集を予定しています。ゼフ関連の
おもしろネタをお持ちの方、是非編集人まで。もろ
ろん新産地・新発見は言うまでもありません。
- ◎ また、採集地案内特集(特集にするかどうか
は考慮中)も予定していますので、これについて
編集人迄お願いします。

目

次

1981年アサマシジミ調査記録	松井正人	1
尾添川水系アサマシジミ調査マップ	松井正人	4
思い出ばなし 其の一: ツルギシジミ	金子ニク	6
カトカラ狂い: Part II	野中 勝	6
白山釈迦道に於ける燈火採集の記録	松井正人	7
会員の動き・しゃばの動き		8

期

NO 26

1982年 2月 15日(月)

発行: 金沢市三ッ新街4-9-34・松井正人方 百万石蝶談会

編集・校正: 嵯峨井 淳 郎